

1. 会合名	第 34 回 運営審議委員会
2. 日 時	平成 30 年 2 月 28 日（水） 午後 3 時 00 分～ 4 時 10 分
3. 議 案	<ol style="list-style-type: none"> 1. あっせん委員の選任について 2. 平成29年 4－12月における紛争解決業務等の状況について 3. 平成29年度事業計画実施状況及び平成29年度事業会計収支実績見込みについて 4. 平成30年度事業計画（案）及び平成30年度事業会計収支予算（案）について 5. その他
4. 主な内容	<p>1. あっせん委員の選任について（資料 1－1・1－2・1－3・1－4） 岡田あっせん委員候補者推薦委員会委員長より、平成 30 年 2 月 20 日に開催されたあっせん委員候補者推薦委員会の議事内容についての説明、報告が行われ、原案どおり了承された。</p> <p>2. 平成 29 年 4－12 月における紛争解決業務等の状況について（資料 2） 三森センター長より、資料にもとづき、平成 29 年 4－12 月における紛争解決業務等の状況について報告が行われた。</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あっせん開催回数が増えていることは、事業者にとってもよいことだと思うが、全体の件数が減っているというのは、丁寧に和解に向けているためなのか、それとも、数とは関係なく尽力をしているということなのか。 ⇒ それぞれの事案ごとにあっせん委員の方々に解決に向けての尽力をしていただいた結果だと理解している。 ・ 相談、苦情の状況等を御説明いただいたが、相談では制度の説明、あっせん申立では勧誘の説明義務が中でも目立っているということであるが、関係団体、証券会社、証券業界、その他にどのようにフィードバックするのか、どんなタイミングで行っているのか。 ⇒ さまざまなものをフィードバックしており、関係団体にはすべてのデータを提供している。まず、あっせんではどのような事案で、それは申立者がどういう主張をしたのか。そして、事業者側はそれに対してどのような主張だったのか。そして、紛争解決委員はどのような見解を示したのか。その事案を振り返って、どういったところに留意点があるのかを取りまとめ、日証協を通じて、事業者提供している。それから、苦情事例についても、四半期ごとではあるが、あっせんと同様に事業者提供させていただいている。 特に、毎月、提供させていただいているあっせん事例については、通

	<p>知を行うと問い合わせも数件ある。聞いたところでは、社内研修の材料として使っている証券会社もあると聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きめ細かく対応しておられるようで安心した。公正中立な立場で解決を図るための規定なり、苦情の発生防止、発生件数の減少は非常に重要なことである。 <p>3. 平成 29 年度事業計画実施状況及び平成 29 年度事業会計収支実績見込みについて (資料 3-1、3-2、3-3)</p> <p>青木専務理事より、資料にもとづき、平成 29 年度事業計画実施状況及び平成 29 年度事業会計収支実績見込みについて報告が行われ、原案どおり了承された。</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3-3 で、あっせんに伴う大阪事務所のセキュリティ強化工事という話があったが、他の事務所は安全なのか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 東京事務所では、移転に伴いセキュリティの手当をした。他のあっせんについては、多くは日本証券業協会のオフィスをお借りし、それ以外では外部の何らかの施設を借りている。日本証券業協会とはセキュリティについて議論している。外部のホテルを利用する場合は、予約時において留意している。 <p>4. 平成30年度事業計画（案）及び平成30年度事業会計収支予算（案）について (資料 4-1・4-2・4-3・4-4)</p> <p>青木専務理事より、資料にもとづき、平成 30 年度事業計画（案）及び平成 30 年度事業会計収支予算（案）について報告が行われ、原案どおり了承された。</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費の人件費で、システム要員の説明があったが、このシステム要員は常勤、非常勤のどちらか。また、何をしてもらう予定か。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 基本的には常勤を考えている。日々のメンテナンスに加えて、数年後のシステム更新に向けて、開発をやっていただきたいと考えている。それ以外にも、委託元団体からの要望に応えられるように、システムの改善をお願いしたいと思っている。 ・ この分野は非常に重要であり、人による差も激しく、人手不足もあって、いい人を確保するのがなかなか難しい。また、システムの見直しというと、継続して働いていただかないといけないので、そのあたりも十分配慮の上、
--	--

人選していただきたい。

- ・ 外部監査を入れるというお話があったが、システム監査の外部コンサルをお願いしたことはあるのか。
 - ⇒ 当初はそこまでの契約はしていないが、いずれはあり得るのではないかと思う。
- ・ 一般的には若い人を組織の中で育てて、外部の方には非常勤でアドバイザー的な顧問等の形で入っていただくのが良いと思うがどうか。
 - ⇒ トラブルがいつ起こるか予見ができないため、私どもとしては常駐を確保したいと思っている。内部職員を教育訓練して対応するということも議論をしたが、なかなか難しい。
- ・ システムというのは、データベースのことを指しているのか。データベースだけを管理するのであれば常勤が本当に必要なのかと思う。新しいシステムに更新時や現在のデータベースのシステム自体を改良するとすると、常勤の方に期待しているということなのか。
 - ⇒ システムとしてはデータベースのシステムであるが、我々のある意味基本財産であり、システムリプレイスの際にはもう一度構築し直すことも必要になる。そこには専門的な職員にいたほうが良いと思っている。また、メールを送信、受信などの日々のトラブル、端末が動かないといったトラブルに対し、ベンダーへの連絡、修理対応など、私どもが現業を持ちながら対応している状況であり、システム専門の方にそういった日常のメンテナンスも含めて、お願いしたいと思っている。

5. その他

特に議論はなかった。

以 上